

田中正造ゆかりの博物館
佐野市郷土博物館



Sano City Museum

原始から近現代へ



佐野の源流をたずねて

手から道具へ

ヒトとサルとの根本的な相違は、直立二足歩行と道具の製作にあります。ヒトは、石器やその他の道具を作り、動物などを捕え食糧としていました。

日本列島に人類が住み始めたのは、まだ中国大陸と陸続きになっていた寒冷な気候の旧石器時代で、佐野市域にも遺跡が点在し、ナイフ形石器などが出土しています。



旧石器時代の石器

土器製作の開始

日本では約12,000年前に土器が作られ始め、採集狩猟生活を基本とする縄文時代となります。土器は食物の煮炊きに利用され、食糧となる動植物の範囲も広がりました。また、縄文土器はさまざまな文様で飾られ、時間や地方によって違いがみられます。



縄文時代の遺物

いづるはら 出流原遺跡

出流原遺跡は、弥生時代中期（約2,000年前）の共同墓地で、37基の墓塚と100個以上の土器が発見されています。

当時の葬制は、土葬などによって白骨化した遺骨を洗骨し、壺に入れて埋葬するという再葬墓制の風習がありました。



出流原遺跡出土の面付土器(模製)と細頸壺形土器

古代の佐野

4～6世紀は全国各地に古墳が作られた時代で、八幡山古墳などもこの時期のもので、佐野市域では7世紀にいたっても古墳が作られ、古代の集落遺跡も数多く発見されています。

奈良・平安時代には三轟山^{みかもやま}周辺で瓦や須恵器が盛んに生産され、



衝角付甕と短甲（八幡山古墳）

関東地方でも有数の窯業遺跡群が残されました。



軒丸瓦と軒平瓦（大日堂廃寺）

中世の佐野

鎌倉・室町時代の佐野市域は、唐沢山周辺を拠点とした佐野氏を中心に、小野寺氏や阿曾沼氏の興亡に明け暮れました。戦国時代には佐野氏が唐沢山に城を構え、乱世を乗り越えようとした。一方、「西の芦屋に東の天命」といわれたように、天命^{てんめい}鑄物も盛んで、数多くの作品が各地に残されています。



龍綺兜



天命風鈴形釜

近世の佐野

江戸時代になると佐野氏は春日岡に城替えとなった後、慶長19年（1614）に改易となって領地は幕府直轄領となりました。

その後、寛永10年（1633）に彦根藩領などを経て明治維新を迎えます。この間、天明宿などは日光例幣使街道の宿場町としても繁栄しました。



堀田正敦歌集

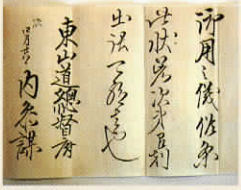


エラスムス像（複製）

近代への胎動

幕末期のペリーの来航以来、討幕運動が盛んとなり、佐野周辺でも太平山事件や出流山事件が起きました。

明治維新によって社会体制は大きく変わり、なかでも廃藩置県によって彦根藩は彦根県、佐野藩は佐野県、旗本領や幕府直轄領は日光県になりました。



東山道総督府内参謀よりの呼出状



太政官高札 (彦根県)

産業と交通の発展

佐野市域の産業を代表するものは織物業で、なかでも綿縮は明治20年代

が最盛期でした。

一方、明治22年に両毛鉄道、同23年に安蘇馬車鉄道があいついで開通し、物産の大量輸送と輸送時間の短縮が実現し、地域の産業経済の発展に大きく寄与しました。



葛生駅付近図 (安蘇馬車鉄道時代)



八丁撚糸機

佐野の際物

ひな人形や職、羽子板などの際物は、江戸時代の末から明治にかけて

盛んに作られるようになりました。その後、日露戦争以降、需要の高まりとともに、販路も日本各地へ広がりました。

多くの職人たちによって培われた各種の技術は、その作品とともに現代まで引き継がれています。



ひな人形製作工程



鍾馗幟

田中正造展示室



田中正造（70歳の時）



政治を志す決意文



直訴状



正造遺品の小石（3箇）



非戦主義を唱える扇面

